

保険証一枚ではり・きゅう・マッサージを受けたい

医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木 2-39-7 メゾン代々木 201 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メール iryo-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp

ホームページ <http://npo-iryo.org/>



社教館まつりで東洋医療普及活動を行う

田中 榮子

2月15日恒例となっている「千駄ヶ谷社教館まつり」が行われました。昨年に比べ晴天も幸いしか、参加者が次々と訪れました。私達「NPO 法人医療を考える会」は、『鍼灸、マッサージを健康保険でかかり易くしよう』のコーナーを開き、マッサージ希望者を受け付けました。午前中から多くの方がマッサージを受けに来ました。今年は、鍼灸、マッサージの資格者（一般社団の会員さん）が、若い人も熟年者も多数駆けつけて下さいました。そしてその人にあったマッサージ法を、気持ちを込めてやって下さいました。たいそう心強く思いました。瀬川氏のベッドを借りられたのも良かったですね。

施術を受けた人たち約 60 人は快く署名に協力し、満足そうに帰られました。「NPO」の担当者も現制度などの説明や東洋医療に健康保険が当たり前のように署名のお願いなど、一生懸命走り回りました。

私は、マッサージは若い資格者に任せて血压測定のための希望者に対応したり、一般参加者と東洋医療の実情などを話したりしていて、後からマッサージをうけもったのは高齢の女性 3 人でした。「普段は経済的理由でかかる機会がありませんが、健康保険で受けることが出来たらどんなに助かることかしれません。」と話されていました。この会館を利用する人々は踊り、習字、華道等自分の好きな趣味をやったりしながら、ここの年一回のお祭りを楽しみにしているようです。私達は、鍼灸マッサージ、東洋医療の普及活動を又機会を設けて続けることの大切さを再確認しました。

今回は、施術者 14 名、NPO 担当者 3 名の参加でした。皆様、大変お疲れ様でした。



大山登山マラソン大会ボランティア

3月8日（日）、第30回の大山登山マラソン大会（主催：伊勢原市教育委員会）に、神奈川県鍼灸マッサージ協同組合の要請を受け、走者へのマッサージ施術ボランティアに参加しました。

当日ボランティアは二手に分かれ、山頂の阿夫利神社に行く施術者は午前8時に伊勢原駅に集合。スタート場所である伊勢原小学校の校庭担当のメンバーは午前10:30分に集合しました。神奈川県鍼灸マッサージ協同組合の施術者7名、東京の（社）鍼灸マッサージ師会の施術者8名、NPO 医療を考える会の役員等4名、合計19名が参加しました。

スタート地点にて

私は伊勢原小学校の校庭の方に参加しました。当日は前夜からの雨がレース直前まで降り続きました。校庭も水溜りがいくつも出来ていました。

レースが始まる前に雨は殆ど止みましたが、テントが吹き飛ばされそうな強風でした。施術師の方々は5~6台の長机を利用した簡易ベッドをつくり、その上でマッサージを行いました。



（伊勢原小学校校庭のテントでの施術）

固いテーブルと冷たい風の中でのマッサージは、走った後に汗をふきながら薄着でケアを受ける方々のためにも改善が必要と、痛切に感じました。ボランティアに参加して下さいました皆様お疲れ様でした。

山口 充子



（出店ブースを回って署名のお願いをする）

マラソンを終えた走者が切れ目なくマッサージを希望され、施術の先生方はフル回転で疲労した走者のケアにあたりました。

また、施術を受けられる方にはチラシを渡しながらか署名をお願いし、協力を訴えました。

施術を終えた各ランナーは、「保険でできるようになるとよいですね」と、さわやかな表情で感謝の言葉を残して帰られました。

署名数は山頂分と校庭分を合わせて145筆でした。



3月8日、大山登山マラソン大会のボランティアに行ってきました。ランナー達の後ケアを少しでもお手伝いし、笑って帰る人たちを見送る楽しさは、なんとも言えないパワーを私こそもらってきました。

“また来年も走るぞ！！”“また来年お会いしましょうね！！”とっても気持ちのいいお別れの言葉です。来年のボランティアのために、体調を整えますよー！！

ゴール地点にて

山西 カ



恒例の大山登山マラソン大会で、去年は受付場所であるところの伊勢原小学校での署名活動に参加しましたが、そのときの反省として、ゴール地

点である阿夫利神社下社^{しもしや}での署名活動がほとんどできなかつたため、今年はNPOの山西俊夫理事長と自分が、『健康保険ではり・きゅう・マッサージを受けたい』という署名運動の担当として参加しました。

伊勢原駅前に朝の8時に集合しました。そのときすでに、大山マラソンに参加するランナー達がたくさん電車から降りていました。その人の多さに少し驚きました。大山マラソンのスタッフが集合する伊勢原市役所に移動、受付を経てスタッフ専用の大山まで搬送する臨時バスに乗って大山の麓まで行き、ロープウェイでゴール地点に10時に到着しました。大山の天候は雨が本降りではないものの地面はぬかるみ、屋外では施術が出来ない状況でした。運営スタッフの方々と相談した所、食堂の奥にある和室を使わせて頂けることになりました。



(阿夫利神社 下社)



(治療に大忙し)

何年もの間、大山マラソンでマッサージのボランティアをしているにもかかわらず雨天は初めての事だったそうです。打ち合わせも出来ない中で11時頃選手がゴールし始めました。しばらくして両足がけいれんして歩けなくなった50代の男性がゴール地点に詰めていた救護班のスタッフの方々に抱えられながら運ばれてきました。例年ならばゴール地点の脇で施術をしましたが、今年は雨天の為にそこから40メートルほど離れた室内での施術のため一人目が運び込まれた際に誰がどこで靴を脱がすのか、誰が救護スタッフの方から救護を受け継いで施術師の方まで運ぶのかなど多少ごたごたしましたが、そのすぐ後にどう

対応するかを検討した結果自分が担当することに決まり、大忙し。靴を脱いでいる間に紙コップの水を飲んでいただくようにするなど、二人目以降から対応しました。

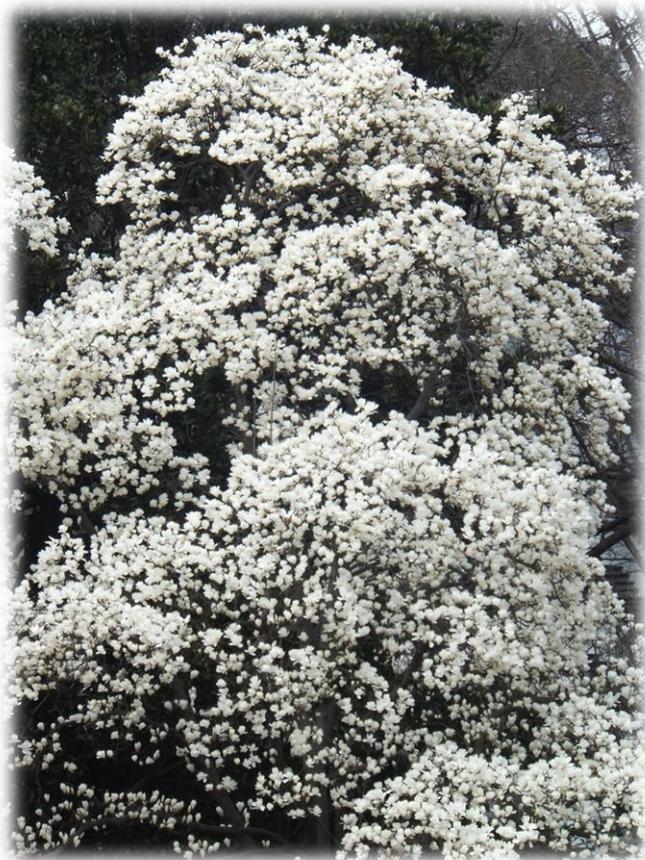
そのうちに食堂は主催者の方から配給されたおかゆを食べたり着替えをする人でごった返すようになったので、ランナーを運んでくる救護スタッフの方々のために道をあけ、呼び込みも行いました。施術場所がゴールから少し離れていたためか、残念ながら人の集まりが悪く、例年よりも治療を求める人の数が少なかったようでした。

正直なところ自分は署名活動のつもりで今回の大山マラソンに参加しましたが、別のことをやっていたため、理事長に署名集めをお任せすることになりました。

最後のランナーがゴールしたときには雨はもう上がっていて、大山から相模湾までの景色が見えるようになりました。山頂からの見晴は素晴らしく、別の機会にでも又来たいと思いました。今回の活動で集めた署名はゴール地点の阿夫利神社下社で 49 筆でした。



(はい、集合！お疲れ様でした。)



花さかんな新宿御苑

新宿御苑には大きな白いモクレンの木が何本もあり、このモクレンが花開くと御苑は、春の花まっさかりの花の季節を迎えます。

東京で一番大きいというハクモクレンの巨木があり、この巨木の花開くときは、木をとりまくカメラマンが絶えません。

モクレンといっしょにコヒガンさくらや寒ざくらなど、さくらの花もはじまっているのですが、さくらの本番、ソメイヨシノが花開くのは、ハクモクレンが終わるころです。

新宿御苑は 1,100 本の桜があり、種類もいろいろで、ソメイヨシノのあともすばらしい八重桜が咲き続きます。そしてさくらからつつじへ、4月に入って十分お花見ができますから、是非訪ねてみてください。

新宿御苑 新宿門付近のハクモクレン

3月13日 久下 勝通

健保改善を求める署名

団体要請行動の報告

田中 榮子

「鍼灸・マッサージ治療を健康保険で気兼ねなくかかりたい」という国民・患者さんの要望は、最近大きくなってきました。今、行っている健康保険改善の署名活動を、より多くの国民に知っていただくにはどうしたら良いか、理事会で毎回話し合ってきました。

そしていろいろな団体へ要請行動に出向く計画を立ててきました。その後の訪問内容をお伝えします。

1 全日本民主医療機関連合会 本部訪問 2月9日

たにぐち みちよ とりいあきら
～谷口 路代氏・華表 暁氏対応～

谷口氏は現政権により、医療、介護の全般の中身が悪くされ、人間の命や、健康を守る仕事に、諸困難をかかえている。という中で私達の話丁寧聞いてくださいました。そして、改善のために協力しましょう、と話されました。

当方参加者：山西俊夫・高橋養藏・清水一雄・木幡久美子・田中榮子（敬称略）



2 中央社会保障推進協議会 訪問 3月12日

～事務局の池田 武士氏対応～



私達は日本の社会保障を良くする社保協の活動にお礼を言ってから、鍼灸マッサージ治療の制度の実態、患者がかかりたい医療へ自由にかかる権利は「憲法」にあること、等をお話しし、鍼灸マッサージの治療をうけたことのなかった池田さんは真剣に聞いてくださいました。そして、全国の各支部へ署名の用紙、チラシを送る手筈を取ることを約束して下さいました。

人間が安心して暮らす社会保障の内容がどんどん悪くされてきているので、お互いに良くするよう協力し合うことを話し合いました。

当方参加者：高橋養藏・久下勝通・山口充子・木幡久美子・田中榮子（敬称略）

3 全日本年金者組合 訪問 3月16日

～田中 諭 書記長対応～

年金制度を良くするための熱心な活動に感謝を表明し、当方の東洋医療、鍼灸マッサージが健康保険にまともに扱われていない実態や、『憲法』から言っても、かかりたい医療を自分で選ぶことは自由であること、などお伝えしました。

書記長さんは、以前、膝痛等で接骨院のマッサージを受けた経験から、こちらの要望をよく理解していただきました。そして、全国の支部へ発送の手配をされると言って下さいました。

組合の方からは年金改善の署名を依頼されました。

当方参加者：高橋養藏氏・山口充子・木幡久美子・田中榮子（敬称略）



おわりに

一般国民・患者さんは鍼灸マッサージにかかりたい希望は多くありますが、健康保険制度の不備については、まだ理解しにくいところがあります。

私達は、今後も広範囲の国民の皆さんに協力していただけるよう普及活動を続けていく事が大事です。

当たり前の安心できる制度をつくっていくんだ。これは、道理を通していく働きです。会員の皆様も遠慮なくアイデアを出しあって周りに広げていただけますようよろしくお願いいたします。



100万署名の報告

大阪府在住の患者 Y さんから署名が寄せられました。お手紙もいただきましたので、ご紹介させていただきます。

『大阪ではこの運動はまだ知られていません。私もネットで調べて知った次第です。医院などの窓口で署名用紙を置いてみるのもいいのでは…。私は以前から体調が悪く、歩けない状態です。私のような人にとっては同意書取得は3カ月に一度でも大変なことです。患者の願いがかないますように！一日でも早く、どこでも保険で施術を受けることができるようになりませう様、頑張ってください。』

平成27年3月末日現在 **7976 筆** (当会に寄せられた署名の到達点)

～地域活動～ 狛江市上和泉地域センター健康教室

ペットボトルの温灸

武井 百代



3月7日東京都狛江市上和泉地域センターにて狛江市新婦人亀の子班健康体操教室に講師として協力させていただきました。当日は天候不順の寒い日でしたが7人の方に参加いただきました。

テーマは「自分でいつでもできる」で、ペットボトルを用意し、水1に対し熱湯3の割合で約60℃にし(熱い場合はタオルなどでカバー)、それを入れた小さな湯たんぼのようになったペットボトルで温灸マッサージ。下肢からお腹/肩から首筋と順番にさするようにマッサージ。寒い日だったのでちょうどよかったです。

次に軽くみんなで自己紹介。名前と困っていること、こうなったらいいなっていうことをお話ししていただきました。膝の悩みが多く、痛みの原因や背景を共有できました。

そこからツボ教室。最近のジグザグ天気と花粉症に効果のある自分でも触りやすいツボを5つ紹介しておぼえていただきました。初参加の方も熱心に聞いてくださいました。最後に股関節/肩/足/膝/手/発声の体操。声掛けを順々に持ち回りで行って最初声が小さかった方もお腹から声ははっきりできるようになりました。

タオル体操を次回テーマにして2時間の教室は終了。楽しんでいただけたようで、また来月伺う予定です。

セルフケア講座

～ジグザグ天気 と 花粉症を 5つのツボで乗り切ろう～。

寒い夜と朝、目はしょぼしょぼ のどはイガイガ、→つかれた体はたいへん！
そこで 簡単に行えるツボをご紹介します。



太敦	冷え のぼせ めまい たちくらみ つかれ 無気力
太衝	目のかゆみ 疲れ目 筋肉痛 疲労 腰痛 のぼせ
衝陽	足の冷え 胃の不調 膝の痛み 腰痛 股関節痛
合谷	目のかゆみ 鼻水 のどの不調 首肩手首の疲れ痛み
魚際	セキ 呼吸の不調 腕指首の不調 乗り物酔い

被曝から5年目の福島

久下 勝通



すでに原発事故から満四年が経過しましたが、依然として福島原発事故は収拾の見通しがまったくたっていない。

国が投じた廃炉・汚染水対策の費用は2013年3月までに1892億円になるというのですが、核燃料を冷却する高濃度汚染水の処理方法の決め手がなく、汚染水の外洋への流失が繰り返されています。廃炉への遠い道筋はまだ見えてないのです。

東北の復興、福島の復興のスローガンが繰り返され26兆円以上の膨大は復興予算がくまれ、道路などインフラ整備はすすみ、見た目の復興はすすんでいると思います。

しかし、いまだに12万人という方が避難生活をおくっており、被災地の各地域住民から損害賠償を求める訴訟が起こされ、各地へ自主避難した人々からも生業保障の訴訟がおきています。原発被災地浪江町では住民15,000人が申し立てる訴訟が進められています。

故郷を追われ、家族をこわされ、仕事、生活の場を奪われた人々の苦しみは、被災から4年間積み重ねられ、複雑で深刻です。仕事や避難のために夫婦の別居から離婚問題へ、高齢者は仮設住宅への入居で、家族や地域から孤立し、病弱となり亡くなる人も増えているのです。

東京新聞の調査によると、原発関連死は増え続け1232人になったことが3月10日に報道されています。被災者の支援、暮らしていける保障は、まず、第一の復興対策ではないでしょうか。国も東電もこの責任をあいまいにしていることを国民は許してはならないのではないのでしょうか。

映画 わたしの終わらない旅

製作・監督・撮影・編集 : 坂田雅子

『花はどこへいった』『沈黙の春を生きて』で世代を超えた枯れ葉剤の被害を描いてきた坂田雅子監督が選んだ新たなテーマは「核」。

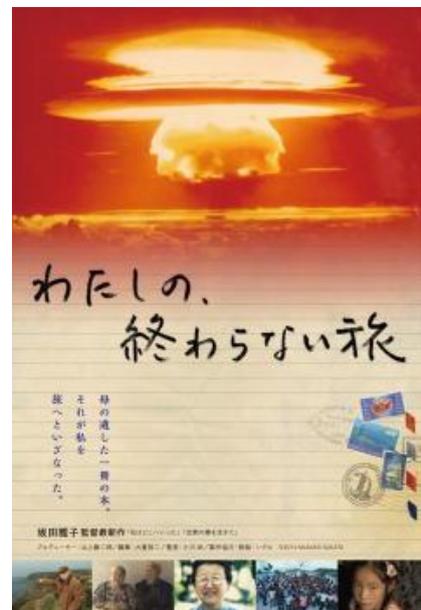
福島第一原発の事故がもたらした現実に関心しながら、今は亡き母が数十年前から続けていた反原発運動の意味に、改めて気づいた坂田。彼女は、母親と自身の2世代にわたる想いを胸に、兵器と原発という二面性を持つ核エネルギーの歴史を辿る旅に出る。

フランスの核再処理施設の対岸の島に暮らす姉を訪ね、大規模な核実験が繰り返し行われたマーシャル諸島で故郷を追われた島の人々に出会い、そしてカザフスタンでは旧ソ連による核実験で汚染された大地で生きる人々をみつめる。広島・長崎・第五福竜丸、

3度もの被曝を体験した日本。しかし「核の平和利用」を夢みて、

原発を推進してきた私たちの時代。「聞いてください」核に翻弄された人々の声なき声を。

坂田雅子監督による渾身のドキュメンタリー。(わたしの終わらない旅公式サイトより)



上映 **ポレポレ東中野** 3月21日～未定 JR東中野駅下車2分

一日2回上映 10時30分 12時30分 入場料1000円

東京都中野区東中野 4-4-1 ポレポレ坐ビル B1F [電話] 03(3371)0088